

犯罪被害者の支援訴え

一宮で遺族「心こもった言葉支え」

犯罪の被害者や遺族に対する支援の大切さを知ってもらおうと、県は8日、フォーラム「犯罪被害者支援ハートフルサポート」を、一宮市大和町馬引の一宮地場産業ファッションデザインセンターで開いた。約180人が参加し、遺族の胸の内に耳を傾けた。

県によると、殺人事件の被害者遺族には、身内を亡くした精神的なショックばかりでなく、周囲の無理解でさらに傷つけられるケースもあるという。フォーラムは、被害者の気持ちを知り、支える社会をつくらうと、県が「被害者サポートセンターあいち」(名古屋市)とともに開いた。

この日は、犯罪被害者の遺族4人がパネルディスカッションに参加。インターネットの「闇サイト」で集

まった3人組の男に娘を拉致、殺害された磯谷富美子さん、岡崎市で2002年6月、大学生の娘を少年に刺殺された下村英一さんらが、「子どもが殺害されたことが信じられず、受け止められなかった」などと悲痛な心中を吐露。「心のこもった言葉や行動が支えになる」と支援を呼びかけた。

パネルディスカッションに先立ち、被害者支援に詳しい常磐大学の長井進教授が基調講演した。

犯罪被害者支援を

千種、遺族ら訴え

犯罪に巻き込まれた被害者への支援を呼びかけるシンポジウム「いのちかなで



るひとに まちに 思いやりのともしびを」(県主催)が13日、名古屋市千種区の市中小企業振興会館で開かれた写真。

遺族によるパネルディスカッションでは、豊明市で2004年、妹とおい、めいの計4人が放火・殺人された天海としさんが登壇。天海さんは、犯人がまだ逮捕されていない中、「犯人が逮捕されるために、メッセージを言い続けることが私たちにできること」などと訴えた。遺族らは、支援として「特別視せずに、今までと同じように接してくれることが一番助かる」と呼びかけた。

12/15 読売